

人文社会科学研究科【教育課程編成・実施の方針】

【人文社会科学研究科（全体）】

人文社会科学研究科は、学位授与の方針で示した学修成果を実現するため、以下に示す全専攻共通の教育課程及び専攻別に示す教育課程を編成し実施する。

1. 各専攻に設置する科目は、「研究科共通科目」と「専攻固有科目」に大別する。
2. 「研究科共通科目」は、専門分野を超えた共通知や専門分野に偏らない学際性を身に付けることを目的としており、以下に掲げる4種類の科目群から構成する。
 - (1) 研究者基礎力養成：研究を遂行する上で必要となる基礎力を身に付ける
 - (2) 現代的課題：現代社会に生起する多様な諸課題に関する学際的な知識を身に付ける
 - (3) 留学生支援：外国人留学生の日本語による論文執筆能力を向上させる
 - (4) 教職支援：教員職を目指す学生が、教科にかかわらず、中等・高等教育現場における諸課題について思考する能力を身に付ける
3. 「専攻固有科目」は、各専攻が定める教育課程編成・実施の方針に基づき設置するが、以下を全専攻共通の方針とする。
 - (1) 学生が目指す進路又は身に付ける専門性（専門知識・技術）に応じた履修コース・モデルを示し、これを実現すべく体系的な教育課程を編成する
 - (2) 一専攻で複数の学位を授与するときは、授与する学位に応じた「領域固有科目」を設置する
 - (3) 標準修業年限の全てのセメスターに研究指導科目を設置する
 - (4) 科目名の末尾に記述するローマ数字、アルファベット及び算用数字は以下を意味する
ローマ数字：同じ分野であるがテーマや範囲が異なる
アルファベット（A又はB）：AとBのセット履修を推奨する
算用数字：1から順番に履修する（履修順序を示す）

【日本語日本文学専攻】

日本語日本文学専攻修士課程は、学位授与の方針で示した学修成果を実現するため、人文社会科学研究科全専攻共通の教育課程及び以下に示す教育課程（専攻固有科目）を編成し実施する。

1. 「専攻固有科目」は、「総合科目」と「専門科目」に区分する。
2. 「総合科目」には、論文作成の基礎的な知識や専門教育の分野に関する最新の研究動向を踏まえた実践的研究方法を修得することを目的とした科目を配置する。
3. 「専門科目」は9種類の科目群から構成する。
4. 「日本文学」「漢文学」「日本語学」「日本語文化」の科目群には、日本の古典文学や近代文学、日本語学、日本語を取り巻く文化及び漢文学の高度な専門知識を学修することを目的とした科目を配置し、専門分野の特論や専門分野に隣接する分野の特論を中心に

専門分野外の特論を選択履修することにより、多様な進路に役立つ能力を養成する。

5. 「国語科教育」「書道科教育」の科目群には、教員を目指して専修免許状の取得を目指す学生が、各教科の教育について包括的に学修することを目的とした科目を配置する。
6. 「日本語教育」科目群には、国際的視野に立って日本語を把握し、教える技術を身に付けることを目的とした科目を配置する。
7. 特論Aは、各分野に関するこれまでの研究成果に学びつつ、今日的研究課題を発見する能力を養成し、特論Bは、個別の資料やテキスト、メディア、実地調査結果に基づいて、その意義や価値を正しく評価する能力を養成する。
8. 「研究指導」科目群には、研究指導教員が、修士論文作成に直結する研究指導を行うことを目的とした科目を段階的に配置する。
9. 「論文執筆指導」科目群には、研究指導教員以外の教員が副指導教員として、修士論文執筆のための補完的な指導を行うことを目的とした科目を配置する。

【言語文化専攻】

言語文化専攻修士課程は、学位授与の方針で示した学修成果を実現するため、人文社会科学専攻共通の教育課程及び以下に示す教育課程（専攻固有科目）を編成し実施する。

1. 「専攻固有科目」は、「総合科目」と「専門科目」に区分する。
2. 「総合科目」には、専門教育の分野に即した実践的研究方法や理念を修得することを目的とした科目を配置する。
3. 「専門科目」は7種類の科目群から構成する。
4. 「言語学」「英語学」の科目群には、現代の言語学及び英語学の諸領域を包括的に学修することを目的とした科目を配置する。
5. 「英語圏文化」「世界の文化」の科目群には、英語圏及び世界の多様な文化を広く学修することを目的とした科目を配置する。
6. 「英語科教育」科目群には、英語科教員を目指して専修免許状の取得を目指す学生が、英語科教育について包括的に学修することを目的とした科目を配置する。
7. 科目名称に特論を含む科目は、専門知識や技術についての理解を涵養することを主たる目的とし、演習を含む科目は、特論で修得した知識や技術に基づき、創造的な教育研究の実践的訓練を行うことを主たる目的とする。
8. 「研究指導」科目群には、研究指導教員が、修士論文作成に直結する研究指導を行うことを目的とした科目を段階的に配置する。
9. 「論文執筆指導」科目群には、研究指導教員以外の教員が副指導教員として、修士論文執筆のための補完的な指導を受けることを目的とした科目を配置する。

【歴史文化専攻】

歴史文化専攻修士課程は、学位授与の方針で示した学修成果を実現するため、人文社会

科学研究科全専攻共通の教育課程及び以下に示す教育課程（専攻固有科目）を編成し実施する。

1. 「専攻固有科目」は、「総合科目」と「専門科目」に区分する。
2. 「総合科目」には、論文作成の基礎的な知識、歴史学研究の流れ、史資料に関する知識を修得することを目的とした科目を配置する。
3. 「専門科目」は6種類の科目群から構成する。
4. 「日本史」科目群には、日本史の各時代（織豊期を含む）、民俗、思想史及び日本史を取り巻く国際環境に関する高度な専門知識を学修することを目的とした科目を配置する。
5. 「外国史」「歴史科教育」の科目群には、主として地理歴史科教員又は社会科教員を指して専修免許状の取得を目指す学生が、世界史の高度な専門知識及び歴史科教育について包括的に学修することを目的とした科目を配置する。
6. 「文化財保存と活用」科目群には、主として学芸員を目指す学生が、博物館史資料学を学修する科目を配置する。
7. 特論Ⅰは、各分野に関するこれまでの研究成果に学びつつ、今日の研究課題を発見する能力を養成し、特論Ⅱは、個別の歴史資料や史跡、伝統的習俗について、その意義や価値を見出す能力を養成する。
8. 「研究指導」科目群には、研究指導教員が、修士論文作成に直結する研究指導を行うことを目的とした科目を段階的に配置する。
9. 「論文執筆指導」科目群には、研究指導教員以外の教員が副指導教員として、修士論文執筆のための補完的な指導を受けることを目的とした科目を配置する。

【法・政治学専攻】

法・政治学専攻修士課程は、学位授与の方針で示した学修成果を実現するため、人文社会科学科学研究科全専攻共通の教育課程及び以下に示す教育課程（専攻固有科目）を編成し実施する。

＜学位共通の教育課程＞

1. 「専攻固有科目」は「総合科目」と「専門科目」に区分し、「専門科目」は「法学領域科目」と「政治学領域科目」に区分する。
2. 「総合科目」には、法学及び政治学未修者が、法学又は政治学的なものを見方を身に付けることを目的とした科目や専門教育の分野に即した実践的研究方法（論文執筆の基礎的な知識を含む）を修得することを目的とした科目を配置する。
3. 学生は主として専門とする学問領域の専門科目を履修するが、法学と政治学は深く関連する学問であることから、目指す進路に応じて、他領域の科目履修を推奨する。

＜修士（法学）の教育課程＞

1. 「法学領域科目」は12種類の科目群から構成し、法学の主たる領域を網羅する。
2. 「外書」科目は、主に研究者を目指す学生を対象として、法律に関わる外国語文献を正しく読み理解することを目的とする。

3. 「公法」「民法」「刑法」「企業法」「社会法」「国際法」「基礎法」「租税法」「新領域」の科目群には、法的な課題を見出し、解決策を提案するための専門知識や法的思考能力・分析能力を身に付けることを目的とした科目を配置する。
4. 「研究指導」科目群には、研究指導教員が、修士論文又は研究成果レポート作成に直結する研究指導を行うことを目的とした科目を段階的に配置する。
5. 「論文執筆指導」科目群には、研究指導教員以外の教員が副指導教員として、修士論文又は研究成果レポート執筆のための補完的な指導を受けることを目的とした科目を配置する。

＜修士（政治学）の教育課程＞

1. 「政治学領域科目」は8種類の科目群から構成し、最先端の政治理論から国や自治体の政策、諸外国の政治及び外交、非営利組織等、現代の政治課題に関わる領域に主眼を置く。
2. 「外書」科目は、日本政治又は公共政策を専門とする研究者を目指す学生を対象として、これに関わる外国語文献を正しく読み理解することを目的とする。
3. 「日本政治」「公共政策」「国際関係」「国際開発」「地域研究」の科目群には、政治的な課題を見出し、解決策を提案するための専門知識や政治的思考能力・分析能力を身に付けることを目的とした科目を配置する。
4. 「研究指導」科目群には、研究指導教員が、修士論文又は研究成果レポート作成に直結する研究指導を行うことを目的とした科目を段階的に配置する。
5. 「論文執筆指導」科目群には、研究指導教員以外の教員が副指導教員として、修士論文又は研究成果レポート執筆のための補完的な指導を受けることを目的とした科目を配置する。

【経済・経営学専攻】

経済・経営学専攻修士課程は、学位授与の方針で示した「学修成果」を実現するため、人文社会科学研究科全専攻共通の教育課程及び以下に示す教育課程（専攻固有科目）を編成し実施する。

＜学位共通の教育課程＞

1. 「専攻固有科目」は、「総合科目」と「専門科目」に区分し、「専門科目」は「経済学領域科目」と「経営学領域科目」に区分する。
2. 「総合科目」には、経済学及び経営学における実践的研究方法（論文執筆の基礎的な知識を含む）を身に付け、経済学及び経営学と実社会との関係性を理解することを目的とした科目を配置する。
3. 学生は主として専門とする学問領域の専門科目を履修するが、経済学と経営学は深く関連する学問であることから、目指す進路に応じて、他領域の科目履修を推奨する。

＜修士（経済学）の教育課程＞

1. 「経済学領域科目」は6種類の科目群から構成し、経済学の主たる領域を網羅する。

2. 「経済理論」「経済分析」「経済政策」「応用」の科目群には、経済学的な課題を見出し、解決策を提案するための専門知識や経済学的思考能力・分析能力を身に付けることを目的とした科目を配置する。
3. 「研究指導」科目群には、研究指導教員が、修士論文作成に直結する研究指導を行うことを目的とした科目を段階的に配置する。
4. 「論文執筆指導」科目群には、研究指導教員以外の教員が副指導教員として、修士論文執筆のための補完的な指導を受けることを目的とした科目を配置する。

<修士（経営学）の教育課程>

1. 「経営学領域科目」は6種類の科目群から構成し、経営学の主たる領域を網羅する。
2. 「組織・マネジメント」「経営戦略」「マーケティング」「会計・ファイナンス」の科目群には、経営学的な課題を見出し、解決策を提案するための専門知識や経営学的思考能力・分析能力を身に付けることを目的とした科目を配置する。
3. 「研究指導」科目群には、研究指導教員が、修士論文作成に直結する研究指導を行うことを目的とした科目を段階的に配置する。
4. 「論文執筆指導」科目群には、研究指導教員以外の教員が副指導教員として、修士論文執筆のための補完的な指導を受けることを目的とした科目を配置する。